

第2学年

令和元年度

シラバス

赤門鍼灸柔整専門学校

鍼灸科第二部

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸科第二部2年
科目名	鍼灸応用実技 I	曜日・時間	土曜日・1時限

【授業概要・目標】

鍼灸臨床の中で最も多く扱われている腰痛、坐骨神経痛、膝関節痛、頸上肢痛、五十肩を対象の中心とした問診法、及び実技習得の向上を目標とする。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	頸上肢痛（理論）	1	腰痛、坐骨神経痛（理論）
2	頸上肢痛（理論）	2	腰痛、坐骨神経痛（理論）
3	頸上肢痛（実技）	3	腰痛、坐骨神経痛（実技）
4	頸上肢痛（実技）	4	腰痛、坐骨神経痛（実技）
5	頸上肢痛（確認）	5	腰痛、坐骨神経痛（確認）
6	五十肩（理論）	6	膝関節痛（理論）
7	五十肩（理論）	7	膝関節痛（理論）
8	五十肩（実技）	8	膝関節痛（実技）
9	五十肩（実技）	9	膝関節痛（実技）
10	五十肩（確認）	10	膝関節痛（確認）
11	五十肩（確認）	11	膝関節痛（確認）
12	シミュレーション課題による PBL テュートリアル	12	シミュレーション課題による PBL テュートリアル
13	実技テスト	13	実技テスト
14	前期総括	14	後期総括
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	前期・後期筆記試験、実技試験、小テスト（実力試験）、授業態度、日常態度全てに鑑みて判断する。
授業の進め方	テキストに基づいて双方向性の授業を心がける。後半時期に PBL チュートリアル方式にてシミュレーションができるように期待する。及び実技習得の向上を目標とする。
注意（学生に望むこと）	日常における予習復習の励行。授業に関係なしに貪欲に様々な医療知識を吸収しようという態度。
使用テキスト・参考書	問診診察ハンドブック、整形外科テスト法、その他 2 冊ほど増加予定。

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸科第二部2年
科目名	心理学	曜日・時間	土曜日・2時限

【授業概要・目標】

心理学の主に基礎的分野に関する代表的な理論を中心とし、心理学全般における基礎知識の習得と理解を目的とする。前期では、知覚、記憶、知能、学習など認知心理学と発達心理学の領域を中心とする。後期では、心理学の応用分野に関する知識を習得することを目的とし、心の発達、社会のなかでの人間、適応への援助など社会心理学、パーソナリティ心理学、臨床心理学の領域を中心とする。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	オリエンテーション	1	心の発達（愛着、心の理論）
2	心理学とは。心理学の領域	2	心の発達（愛着、心の理論）
3	知覚	3	社会と人間1（対人認知）
4	記憶1（記憶の種類）	4	社会と人間2（対人魅力）
5	記憶2（記憶と老化）	5	社会と人間3（社会的影響）
6	学習1（古典的条件付け）	6	社会と人間4（態度）
7	学習2（動機づけ）	7	社会と人間5（集団と個人）
8	知能（遺伝か環境か）	8	社会と人間6（愛他的行動）
9	知能検査の概要	9	社会と人間7（攻撃行動）
10	知能検査の実際	10	パーソナリティとは
11	欲求	11	性格の測定
12	生涯発達理論	12	ストレスとサポート
13	認知発達	13	心理的援助
14	言語発達	14	アンガーマネジメント
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	出席状況 30%、試験 70%
授業の進め方	授業内容の提示はスライドによる。スライドに提示されていない内容に関しては各自配布資料にメモを取るようにする。
注意（学生に望むこと）	授業後に復習を行うこと
使用テキスト・参考書	適宜資料を配布する

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸科第二部2年
科目名	手技療法Ⅱ	曜日・時間	土曜日・3時限

【授業概要・目標】

前期は教科書を基礎に指圧の技術・施術を身につける。後期は全身施術ができ、臨床への応用ができることをめざします。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	指圧 基本手技	1	全身施術
2	肩背部	2	全身施術
3	肩背腰部	3	頭痛 偏頭痛
4	下肢部	4	顔面部 顔面麻痺
5	下肢部	5	肩こり（あま指の五作用）
6	頭部 頸部	6	頸肩腕痛
7	頸部 顔面	7	肩関節痛（五十肩）
8	胸部 腹部	8	胸郭出口症候群
9	上肢部	9	腰痛
10	上肢部	10	坐骨神経痛
11	指圧で全身施術	11	梨状筋症候群
12	指圧で全身施術	12	膝関節痛
13	実技テスト	13	実技テスト
14	実技テスト（ペーパーテスト）	14	実技テスト（ペーパーテスト）
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	前期は指圧を身につける 後期は臨床では治療をどのように進めるかをみる
授業の進め方	教科書を中心に進めます
注意（学生に望むこと）	技術の向上と共に適切な施術ができるよう取り組むことを望みます
使用テキスト・参考書	『あんまマッサージ指圧実技（基礎編）』・『東洋医学臨床論（あんまマッサージ指圧編）』（医道の日本社）

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸科第二部2年
科目名	鍼灸応用実技Ⅲ	曜日・時間	金曜日・1時限

【授業概要・目標】

経穴を実際に取り穴し、人体に対し鍼・灸を行うことに慣れてもらい、臨床実習・一日治療院での実際の施術に備えてもらう。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	鍼・灸の復習（鍼枕、竹筒に灸）	1	
2	疾患別症状・病態の確認、東洋医学的所見、治療穴の取穴と鍼灸を行う①	2	
3	疾患別症状・病態の確認、東洋医学的所見、治療穴の取穴と鍼灸を行う	3	
4	疾患別症状・病態の確認、東洋医学的所見、治療穴の取穴と鍼灸を行う	4	
5	疾患別症状・病態の確認、東洋医学的所見、治療穴の取穴と鍼灸を行う	5	
6	疾患別症状・病態の確認、東洋医学的所見、治療穴の取穴と鍼灸を行う	6	
7	疾患別症状・病態の確認、東洋医学的所見、治療穴の取穴と鍼灸を行う	7	
8	疾患別症状・病態の確認、東洋医学的所見、治療穴の取穴と鍼灸を行う	8	
9	疾患別症状・病態の確認、東洋医学的所見、治療穴の取穴と鍼灸を行う	9	
10	疾患別症状・病態の確認、東洋医学的所見、治療穴の取穴と鍼灸を行う	10	
11	疾患別症状・病態の確認、東洋医学的所見、治療穴の取穴と鍼灸を行う	11	
12	実技テストに向けて練習をする時間とする。	12	
13	実技テストに向けての練習をする時間（or 実技テスト）	13	
14	実技テスト or 通常授業	14	
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	実技テストにおける患者誘導からの一連の流れをもって評価していく。また授業態度・出席点も加味される。
授業の進め方	プリント配布し、疾患の特徴などを確認する。実際に鍼や灸を行っていく。
注意（学生に望むこと）	体調管理は常に行うこと。実際に人の体に触れるので自己のないように慎重さと緊張感をもって臨むこと。
使用テキスト・参考書	文光堂『図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ』は今後使用する機会があると思うので、余裕があれば手にするとよいと思われる。

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸科第二部2年 -
科目名	臨床医学総論	曜日・時間	金曜日・2時限

【授業概要・目標】  
 身体構造や機能を理解したうえで、鍼灸臨床に必要な診察知識、技術を身に付ける。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	オリエンテーション 第1章 診察の概要	1	第6章 神経系の診察 (1)
2	第2章 診察の方法 (1)	2	第6章 神経系の診察 (1)
3	第2章 診察の方法 (2)	3	第7章 運動機能検査 (1)
4	第2章 診察の方法 (3)	4	第7章 運動機能検査 (2)
5	第3章 生命徴候の診察	5	第7章 運動機能検査 (3)
6	第4章 全身の診察 (1)	6	第8章 その他の診察
7	第4章 全身の診察 (2)	7	第9章 臨床検査法
8	第4章 全身の診察 (3)	8	第10章 おもな症状の診察法 (1)
9	第4章 全身の診察 (4)	9	第10章 おもな症状の診察法 (2)
10	第5章 局所の診察 (1)	10	第10章 おもな症状の診察法 (3)
11	第5章 局所の診察 (2)	11	第10章 おもな症状の診察法 (4)
12	第5章 局所の診察 (3)	12	第10章 おもな症状の診察法 (5)
13	第5章 局所の診察 (4)	13	第10章 おもな症状の診察法 (6)
14	前期総合復習	14	後期総合復習
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	定期試験、出席、授業態度、小テスト、課題提出の総合判定とする。
授業の進め方	教科書を中心にポイントを確認する。解剖的な構造、機能を復習する。
注意 (学生に望むこと)	教科書の内容、語句を確認し、理解度を深めるための努力をする。
使用テキスト・参考書	臨床医学総論、解剖学、生理学的、問診診察ハンドブック、

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸科第二部2年 -
科目名	運動学	曜日・時間	水曜日・2時限

【授業概要・目標】  
解剖学的知識を基礎として、運動学・運動力学についての知識を学習する。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	オリエンテーション	1	下肢について
2	運動学の基礎	2	下肢について
3	運動について	3	膝関節について
4	運動について	4	足について
5	運動器の構造と機能	5	体幹について
6	運動器の構造と機能	6	頭部・顔面について
7	神経の構造と機能	7	下肢の運動制限について
8	上肢について	8	脊柱について
9	上肢帯について	9	姿勢について
10	肩関節について	10	歩行について
11	肘関節について	11	歩行について
12	手について	12	筋の作用と支配神経
13	上肢の運動制限について	13	筋の作用と支配神経
14	前期復習	14	後期復習
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	筆記試験、小テスト、出席(授業態度含む)などの総合評価
授業の進め方	解剖学と併せて身体の基礎から始め、応用へと移行する。
注意（学生に望むこと）	解剖学的知識を把握し、運動学に活かせるようにする。
使用テキスト・参考書	特になし

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸科第二部2年 -
科目名	病理学概論	曜日・時間	火曜日・2時限

【授業概要・目標】  
病理学を知り、理解を深め、国家試験に対応できる学力を身に着ける。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	病理学とはどのような学問か	1	肥大と増殖、再生
2	疾病についての基本的な考え方	2	肥大と増殖、再生
3	病因の一般、内因	3	創傷治癒・組織内異物の処理
4	外因、1) 栄養素の不足と過剰。2) 物理的病因	4	炎症の一般
5	3) 化学的病因	5	炎症の分類
6	4) 生物的病因	6	中間試験（進行性病変・炎症）
7	復習（内因・外因）	7	1) 腫瘍とは～3) 腫瘍細胞の特色
8	小児疾患、ヒトの循環系、充血・うっ血	8	4) 腫瘍の組織学 5) 腫瘍の分類
9	貧血・虚血、出血	9	6) 腫瘍の発生の諸段階
10	血栓症、塞栓症、梗塞	10	7) 腫瘍の生体に及ぼす影響
11	水腫・浮腫・脱水症、ショック	11	良性腫瘍、悪性腫瘍
12	萎縮、変性、1) 変性の概念 2) 変性の分類	12	液性免疫と細胞性免疫、アレルギー
13	3) 加齢と老化 4) 生活習慣病	13	免疫不全、自己免疫異常
14	壊死と死	14	先天性異常
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	前期・後期試験の点数
授業の進め方	板書、配布資料
注意（学生に望むこと）	板書の記録
使用テキスト・参考書	病理学概論 教科書



2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸科第二部2年 -
科目名	臨床医学各論 I	曜日・時間	月曜日・2時限

【授業概要・目標】  
柔道整復に必要な一般内科学を学ぶ。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	高血圧	1	血液疾患-1
2	高脂血症	2	血液疾患-1
3	糖尿病	3	腎疾患-1
4	心疾患-1	4	腎疾患-2
5	心疾患-2	5	脳神経疾患-1
6	心疾患-3	6	脳神経疾患-2
7	呼吸器疾患-1	7	脳神経疾患-3
8	呼吸器疾患-2	8	感染症
9	呼吸器疾患-3	9	代謝疾患
10	消化器疾患-1	10	内分泌疾患-1
11	消化器疾患-2	11	内分泌疾患-2
12	肝・胆・膵-1	12	内分泌疾患-3
13	肝・胆・膵-2	13	婦人科疾患
14	膠原病	14	小児疾患
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	定期試験
授業の進め方	教科書に沿って進める。
注意（学生に望むこと）	予習、復習を行う。
使用テキスト・参考書	一般臨床医学 医歯薬出版

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸科第二部2年
科目名	東洋医学各論Ⅰ	曜日・時間	火曜日・1時限

【授業概要・目標】

1、身体の生理作用の知識をより深める、2、病証、病因、病機の習得、3、四診の習得

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	肝の病証	1	望診（望神など）
2	心の病証	2	望診（望神など）
3	脾の病証	3	聞診
4	肺の病証	4	問診（寒熱など）
5	腎の病証	5	問診（飲食、睡眠など）
6	五臓の相互関係①	6	問診（二便など）
7	五臓の相互関係②	7	問診（身体各部位の症状など）
8	五臓の相互関係③	8	問診（汗など）
9	五臓の相互関係④	9	問診（疼痛など）
10	全身の気機①	10	問診（女性など）
11	経絡	11	切診（腹診、背診など）
12	病因病機①	12	切診（脈診など）
13	病因病機②	13	切診（脈診など）
14	病因病機③	14	「四診」のまとめ
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	評価は前期・後期試験の点数を基本とし、小テスト、平常点を加味して評価する。
授業の進め方	授業の進め方は、基本的に教科書通りとする。
注意（学生に望むこと）	東洋医学は、馴染みのない理論、哲学のため、それを「信じる」「信じない」に関わらず、まずはその内容を理解するよう努めてほしい。
使用テキスト・参考書	東洋医学概論

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸科第二部2年
科目名	臨床経穴論	曜日・時間	木曜日・1時限

【授業概要・目標】  
臨床に必要な五要穴、五行穴中心に鍼灸臨床実技の科目とリンクしながら進める。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	五行穴、五要の試験・五要穴は何か	1	五行穴、肝経・任脈
2	五要穴・肺経・大腸経	2	五行穴、肝経・任脈
3	五要穴胃経・脾経、	3	常用穴
4	五要穴・心経小腸経	4	常用穴
5	五要穴・膀胱経、	5	常用穴
6	五要穴・腎経	6	常用穴
7	五要穴・心包経、三焦経	7	常用穴
8	五要穴・胆経、肝経	8	常用穴
9	五行穴、肺経・大腸経	9	常用穴
10	五行穴、胃経・大腸経	10	奇穴
11	五行穴、心経・小腸経	11	奇穴
12	五行穴、膀胱経・腎経	12	奇穴
13	五行穴、心包経・三焦経	13	奇穴
14	前期試験	14	後期試験
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検試験返却、五行胆経	15	

評価の方法	試験により評価
授業の進め方	授業は質疑応答、臨床例挙げながら進める
注意（学生に望むこと）	予習を重視していただきたい。
使用テキスト・参考書	教科書、プリント

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸科第二部2年 -
科目名	東洋療法診断法 I	曜日・時間	月曜日・1時限

【授業概要・目標】  
東洋医学の施術において必要となる診断法の習得。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	オリエンテーション	1	舌診
2	鍼灸臨床の流れ・基本事項	2	舌診
3	医療面接	3	脈診
4	バイタルチェック	4	脈診
5	頸肩腕痛の鑑別	5	飲食・便通の問診
6	頸肩腕痛の治療	6	睡眠・月経の問診
7	肩関節痛の鑑別	7	その他の事項の問診
8	肩関節痛の治療	8	痛みについての問診
9	腰下肢痛の鑑別	9	腹診
10	腰下肢痛の治療	10	肝の病証の特徴
11	膝関節痛の鑑別	11	心の病証の特徴
12	膝関節痛の治療	12	脾の病証の特徴
13	その他の疾患の鑑別	13	肺の病証の特徴
14	医療過誤の予防	14	腎の病証の特徴
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	前期・後期試験の点数
授業の進め方	板書、配布資料 実技
注意（学生に望むこと）	板書の記録
使用テキスト・参考書	東洋医学概論、臨床医学総論 教科書 等

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸科第二部2年 -
科目名	東洋療法診断法Ⅱ	曜日・時間	水曜日・1時限

【授業概要・目標】  
東洋医学診断法Ⅰの補足・復習、臨床実習に向けての実技を行う。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	オリエンテーション	1	
2	医療面接①	2	
3	医療面接②	3	
4	患者対応①	4	
5	患者対応②	5	
6	切診①	6	
7	切診②	7	
8	頸肩腕痛①	8	
9	頸肩腕痛②	9	
10	肩関節痛①	10	
11	肩関節痛②	11	
12	腰下肢痛①	12	
13	腰下肢痛②	13	
14	膝関節痛	14	
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	試験の点数
授業の進め方	配付資料、実技、また学習状況により内容が前後したり、変更したりすることがある
注意（学生に望むこと）	東洋医学診断法Ⅰの復習
使用テキスト・参考書	東洋医学概論、臨床医学各論 教科書等

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名		学科・年	鍼灸科第二部2年
科目名	鍼灸応用実技Ⅱ	曜日・時間	木曜日・2時限

【授業概要・目標】  
実技を中心とした授業。治療目的を構成するための基本を身につける。応用できるようにする。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	1年時の実技基本の確認。	1	五俞、五行穴について説明、取穴
2	経絡の概念等について	2	五俞、五行穴について説明、取穴
3	選穴、実技における過誤の処置、捻鍼法の説明	3	六十九難の説明
4	選穴、選穴を中心とした取穴、刺鍼（捻鍼）	4	肺、脾虚実に対する六十九難の取穴、刺鍼
5	選穴、選穴を中心とした取穴、刺鍼（捻鍼）	5	心、肝虚実に対する六十九難の取穴、刺鍼
6	配穴説明、配穴中心の取穴、刺鍼	6	心包、肝虚実に対する六十九難の取穴、刺鍼
7	配穴説明、配穴中心の取穴、刺鍼	7	肝、腎虚実に対する六十九難の取穴、刺鍼
8	配穴説明、配穴中心の取穴、刺鍼	8	腎、肺虚実に対する六十九難の取穴、刺鍼
9	補瀉説明と実技	9	大腸、胃虚実に対する六十九難の取穴、刺鍼
10	補瀉の実技	10	三焦、小腸、胆虚実に対する六十九難の取穴、刺鍼
11	総復習	11	膀胱、大腸虚実に対する六十九難の取穴、刺鍼
12	総復習	12	総復習
13	前期実技試験	13	後期実技試験
14	前期復習	14	後期復習
◆	前期試験（試験監督は教職員・専任教員）		
15	評価点検評価点検	15	

評価の方法	実技 80%、平常点 20%で評価
授業の進め方	毎回組む相手を替え、その日の課題に対して実技を行う。
注意（学生に望むこと）	施術に対して真剣に取り組む。
使用テキスト・参考書	

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	専任教員	学科・年	鍼灸科二部2年
科目名	臨床実習①	曜日・時間	—・—

【授業概要・目標】

①患者と適切なコミュニケーションがとれる。②施術準備ができる。③基本的な事項について診療録に記載ができる。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	臨床実習前授業（Ⅰ）	1	臨床実習（15）
2	臨床実習前授業（Ⅱ）	2	臨床実習（16）
3	臨床実習（1）	3	臨床実習（17）
4	臨床実習（2）	4	臨床実習（18）
5	臨床実習（3）	5	臨床実習（19）
6	臨床実習（4）	6	臨床実習（20）
7	臨床実習（5）	7	臨床実習（21）
8	臨床実習（6）	8	臨床実習（22）・振り返り
9	臨床実習（7）	9	
10	臨床実習（8）	10	
11	臨床実習（9）	11	
12	臨床実習（10）	12	
13	臨床実習（11）	13	
14	臨床実習（12）	14	
◆	臨床実習（13）	◆	
15	臨床実習（14）	15	

評価の方法	身だしなみ・参加意欲・実習生同士の協調性・患者接遇などを総合的に評価する。
授業の進め方	指導教員の施術見学、施術所の環境整備、施術準備（補助）などを中心に行う。
注意（学生に望むこと）	積極的に実習に参加してもらいたい。
使用テキスト・参考書	なし

2019年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	専任教員	学科・年	鍼灸科二部 2年
科目名	臨床実習②	曜日・時間	—・—

【授業概要・目標】

①患者と適切なコミュニケーションがとれる。②施術準備ができる。③基本的な事項について診療録に記載ができる。

<前期>		<後期>	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	臨床実習前授業 (I)	1	臨床実習 (15)
2	臨床実習前授業 (II)	2	臨床実習 (16)
3	臨床実習 (1)	3	臨床実習 (17)
4	臨床実習 (2)	4	臨床実習 (18)
5	臨床実習 (3)	5	臨床実習 (19)
6	臨床実習 (4)	6	臨床実習 (20)
7	臨床実習 (5)	7	臨床実習 (21)
8	臨床実習 (6)	8	臨床実習 (22)・振り返り
9	臨床実習 (7)	9	
10	臨床実習 (8)	10	
11	臨床実習 (9)	11	
12	臨床実習 (10)	12	
13	臨床実習 (11)	13	
14	臨床実習 (12)	14	
◆	臨床実習 (13)	◆	
15	臨床実習 (14)	15	

評価の方法	身だしなみ・参加意欲・実習生同士の協調性・患者接遇などを総合的に評価する。
授業の進め方	指導教員の施術見学、施術所の環境整備、施術準備（補助）などを中心に行う。
注意（学生に望むこと）	積極的に実習に参加してもらいたい。
使用テキスト・参考書	なし